



TITLE:

戦争利得税新法

AUTHOR(S):

小川, 郷太郎

CITATION:

小川, 郷太郎. 戦争利得税新法. 経済論叢 1916, 2(1): 120-123

ISSUE DATE:

1916-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/126942>

RIGHT:

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

第一號

第二卷

論說

●收益遞減法則ノ發見及ヒ改造

法學博士 河上肇

●米價ノ騰落ト其調節ニ就テ(三完)

法學博士 戸田海市

研究

●近代都市ノ土地買收政策

法學博士 神戸正雄

●穀倉證券論

助教授 河田嗣郎

●本邦出生率増加ノ原因(二)

講師 高田保馬

●本多利明ノ經濟說(二)

法學士 本庄榮治郎

雜錄

●經濟雜語(一)

法學博士 田島錦治

●米國ノ經濟的繁榮

法學博士 神戸正雄

●戰爭利得稅新法

法學博士 小川郷太郎

●米歐爲替ト貿易

助教授 河田嗣郎

●諸學校學生入學年齡ニ關スル統計

醫學博士 鈴木文太郎

●最近本邦鑛業ノ發達ニ就テ

工學博士 齋藤大吉

●最近ノ金融問題(二卷)

谷村一太郎

●萊府大學ノ經濟演習

西彦太郎

●米國ニ於ケル外來白人ノ母語

法學博士 河上肇

戰爭利得稅新法

法學博士 小川 郷太郎

一、余ハ本誌第一卷第四號ニ於テ戰爭利得稅新案ト題シ、戰爭ノ爲ニ大儲クラセルモノヲ稅セナケレハナラヌ所以ヲ説キ、英國、丁抹、獨乙等ニ於テ、之ニ關スル新シキ稅案ガ立案セラレテ、議會ノ問題トナリ、民間ノ論爭トナツテ居ルコトヲ報シテ置イタ。最近獨乙雜誌ノ着イタノヲ見ルト、**丁抹ノ戰爭利得稅ハ既ニ昨年五月十日法律トナリテ發布セラレテ居ル様デアル。**

丁抹ハ實ニ戰爭利得稅ノ魁ヲナシタルモノト云ハネハナラヌ、丁抹ハ中立國デアルケレトモ、中立ヲ守ル爲ニ、動員ヲシテ居ルノデ、經費ハ

澤山カカリテ居ル、ソレニ隣國ノ戰爭ノ影響ヲ受ケテ租稅其他ノ收入モ減少スル所ガアリタカラ、之ヲ補フ收入ガ必要トナツタノデアル、處デ他方ニハ戰爭ノ爲ニ儲タモノガアル、ソコデ戰爭利得稅ト云フヤウナ新稅法ヲ起コスニ至ツタノデアル。

此立法ニ就テハ Karl Diehl (Freiburg i. B.) 氏ガ* 丁抹ノ上院下院ノ委員會ノ法案并ニ法律ヲ取寄セ、最モ責任ノアル調ヘラシテ居ルヤウデアルカラ、氏ノ記スル所ニヨリ少シク其立法ノ要點ヲ紹介シテ見ヤウ。

二、丁抹ノ戰爭利得稅ハ趣旨ニ於テ戰爭利得稅デアルガ、法律ノ名ノ上デハ、非常所得稅ト云フテ居ル、戰爭ニヨリテ平年ヨリモ多クノ所得ヲ得タルモノニ稅スルコトニシテアルカラデア、其平年ノ所得ハドウシテ出シタカト云フニ、一九一二年—三年、一九一三年—四年、一九一四—五年ノ三會計年度ヲトリ、其平均額ヲ計算スルノデアル、戰時ノ所得即チ一九一五—六年、一九一六—七年ニ於ケル所得額カ、前ニ云フ平年

* Karl Diehl, Die dänische Kriegsgewinnsteuer vom Jahre 1915. (Jahrbücher für Nationalökonomie u. Statistik 105. Bd. 2 Heft, S. 2 14-1)

シテ居ル

個人所

控
除
額

七万五千—十万クローチン

千クロ一子

● ● ● ●

二、個人所得ニ稅スルト同シ方法ヲ稅スル

其稅率ハ卽チ左ノ如クデアル。

剩餘所得二對スル稅率

10%以上
15%以下

15%以上 20%以下
20%以上

15%
20%

一九一四年八月一日以後ニ創立セラレタル會社ニ就テハ其所得ガ拂込資本ノ百分五以上ニ達シタルモノニ對シ、其超過額ニ一割ノ非常稅ヲ課スル、法案ニハ最小ノ株式會社ヲ除イテアツタガ委員會デ其條ヲ削除スルコトニナツタ。

以上述ブルガ如ク個人モ法人モ、各戰爭ニヨリテ特別ニ儲ケタルモノハ其特別ニ儲ケタル部分ニ對シ非常稅ヲ拂ハネハナラヌガ、特殊ノ事情又ハ理由ノアルモノニハ此納稅義務ヲ免シ、又ハ稅額ヲ減セラレル。ソレハ其所得ノ増シタノガ歐洲ノ戰爭ニハ沒交渉デアルコトヲ證明シ、大藏大臣ガ之ヲ認メタ場合ニ限ル。

納期ハ一九一五—一六年ノ非常所得稅ハ一九一五年ノ十二月一日デ、一九一六—一七年ノ非常所得稅ハ一九一六年ノ十二月一日トセラレテ居ル。

非常所得稅法ノ主ナル内容ハ以上述ブル如キデアルガ、之ト同時ニ普通ノ所得稅、財産稅并

ニ相續稅ヲモ高メタ。

三、思フニ、丁抹ニテハ戰爭ノ餘響ヲ受ケテ儲ラシタル財産階級ニ稅シ、之ニヨリテ以テ戰爭ノ餘響ヲ受ケテ支出セネバナラヌ經費ヲ辨ゼントシテ居ル、健全ナル財政策ト云ハ子バナラヌ。

戰爭利得稅ヲ課スルノハ、戰爭利得ヲ得タ人ニ對スルモノデナクテハナラヌ、從テ軍需品生産者、商人、請負人、代理人ハ勿論食料品、消耗品又ハ工業品ノ生産者商人ニシテ戰爭ノ爲ニ多量ヲ賣リテ利シ、若クハ價格ノ騰貴ニヨリテ利シタル人ヲ包括シ、進テハ此クシテ儲ケタ會社ノ株主迄ヲモ包括セ子バナラヌ、之ハ既ニKöppeガ論セシ通りデアルガ、*サテ之ヲ實行スルニハ、戰爭利得ヲ得タルモノト然ラザルモノトノ區別ヲセ子バナラヌノデ、實際上、困難ガ起ル。其處ニナルト丁抹ノ立法ノ如キハ、戰爭中ニ、餘計ノ收入ヲ得タルモノハ戰爭ノ爲メニ利得シタルモノト一應推定スルノデ、此困難ヲ免レルコトカ出來ル。Karl Diehlノ評シタ様ニ、戰爭利得課稅方法トシテハ最モ當ヲ得タルモノト云フ

コトが出来ル。

平年所得ニ超過スル所得ハ之ヲ戦争ノ爲ニ儲ケタモノト推定シテ、之ニ非常税ヲカケルノデアルガ、反對ノ證據ガ出テ其推定ヲ破ルト之ニ税セナイ、此除外の規定ハ草案ニハナカツタ、上院ガ加ヘタモノデアル。Ditchハ此除外の規定ハ不必要デアルト評シ、剩餘所得ガ直接戦争ニ關係アルコトヲ證明シ得ナイニシテモ戦時中ニ剩餘所得ヲ得タル以上ハ之ヲ税スベキデアル、戦時中ニハ多クノ人ハ所得ヲ失ヒ財産ヲ失ツテ居ルノデアルノニ反對ニ所得ヲ増シテ居ルト云フノナラバ、戦争利得税トシテ税セナケレバナラスト論ジテ居ル。

余フ以テ見レバ戦争利得税ト云フカラニハ、戦争ノ影響デ儲ケタコトヲ前提トシテ之ニ税シテ居ルモノデアル、モシ戦争ノ影響デ儲ケタモノデナイコトノ證明ガ立テバ、之ヲ免減スルト云フハ理論ニ適ツテ居ル。併シ實際戦争ノ影響デ儲ケタノデナイコトヲ證明スルノハ六ヶ敷カラウ、ソレヲ證明シ、又其證明ヲ検査シテ或ハ正

シトシ或ハ然ラズトスルハ漫ニ手續ヲ煩ハシクスルモノデ、課税技術ノ上カライフト、望マシクナイ。ソコデ、此ノ如キ除外例ヲ設ケヌノモ一策タルヲ失ハナイデアラウ。是レ又税法ヲ簡單明瞭ニスル所以デアル。

丁抹ノ立法ハ剩餘所得ニ累進税ヲカケテ居ル、法人所得ノ方ハ形式上モ實質上モ累進デアルガ個人所得ノ方ハ控除査定ノ方法ニヨリテ初テ累進ノ實ヲ舉ゲルノデアル、從テ累進ノ度ハ極テ微弱デアルト云ハチバナラス。又累進ノ極限ニ就テモ法人所得ハ二割迄行クガ、個人所得ハ一割デアル。個人所得ヨリモ法人所得ヲ重ク税セントスル趣旨ヲ見ルヘキデアル。蓋シ戦時ニ於テ儲ケラスルノハ個人ヨリハ法人ノ方が甚シイノデアラウ、之ニ重イ税ヲ課スルハ亦其當ヲ得タモノト云ハチバナラス。

以上述べブルガ如キヲ以テ見レバ、丁抹ノ立法ハ割合、ヨク出来テ居ル、戦争利得税ノ模範ヲ示シタモノト云フテヨイ。我國モ之ニ倣ヒ斯ノ進歩的税法ヲ立ツルコトニ進デ行カチバナラス。